

ぼくの音楽のおと

作曲：yakateru

ギター曲 ♩=40~50 「6月のための4つの小品」よりアプレュード 副題：「前の子守歌」

この曲は、昭和52年の6月に書いたものです。当時は、学生で雨の降りは外へ出るのが面倒で、ちらかし入した4畳半の部屋で一日中、雨音を聞きながらゴロゴロしていました。そのとき、ひまにまかして書いたものが、この曲です。「—の4つの小品」などと、名前は付けましたが、いつものことで、このアプレュードを書いてしまうとあとはほっぽり出しています。

今回より、「あまがえる」の1ページに連載物と称して毎回、今までに書いたものや、新しくつくったものを紹介しようと思っております。よろしく。でも、これもいつのくせで何回続きますか？

追伸

小生、音楽理論等の勉強は、ほとんどしていませんので、何か、いろいろと変なところもあると思います。気付いたことがありましたら、御面倒でも教えていただければ幸いです。(Y)

ぼくの音楽のおと

無 題

ギター曲

あまり速くなく

作曲 矢部 輝 明

初めてギターを手にしたのは、小学校4年生のころでしょうか。3人組の仲間の1人が兄貴のたじいて自慢そうに見せてくれたことが、強く印象に残っています。ただ当時は、かかえて弾くのは難かしく(小学生の力では無理だったのかも?)、琴みたいにならないうちに、横にして、ドシミとフレットを上から押えて遊んでいました。ただ、それ以外の時期のことでした。本格的(ちょっと表現サオーバーですが)に手にしたのは、小学生最後の春休み、つまり中学入学の直前のことでした。うちのオヤジ殿に入学する祝いに小生がねだってギターを買ってもらったのですが、それには条件がつけられました。「半年間はちゃんと所で習うこと!!」と。この条件のおかげで、小生は小学校最後の春休みから福岡市井尻の7カノ楽器2Fにある「ヤマハギター教室(木下先生)」へ通うことになりました。

ぼくの音楽のおと

子供の情景から
「遠い国から」

PAGE _____

作曲 シューマン
ギター編曲 灰ヶ崎裕輝明

原曲はシューマンのピアノ曲で、それをギター独奏用に編曲したものです。例によって、音楽理論的には無茶苦茶ですので、原曲着のシューマンが聞いたら怒り出してしまうかもしれませんが(もともと、無視出来るような)、その雰囲気は味わう分にはある程度編曲者自身は着目しています。最近、日本のギター界のプリンス萩村清志氏がこの曲を編曲して自発したレコードが出されています。こちらは転調して編曲しているようです。また、萩村氏はこのシューマンの曲集を全曲ギター用に編曲していますが、やはりギターに向いている曲と、そうでない曲もありますから、ちょっと中には無理な気もしないでもない曲も2つあるようです。本当に鼻血は、ギター界、特に日本のギター界では、なんでもかんでもギター曲に編曲してレコードを出す傾向がありますが、その筆頭は長崎出身の山下君でしょう。技術的な問題も含めて、音楽性から言えば、首をかきげなくなるものも無いんじゃないかと思われるようです。過去にもタリスがみたいに、ショパン・ベートーベン・シューベルトらの曲をギター用に編曲してはいますが、今よりずっと合理的に選曲され、編曲されているように感じられますが、いかがなものでしょうか。

ぼくの音楽のおと (その4)

PAGE _____

無 是 題

作曲: 矢部 輝明

The image shows a handwritten musical score for guitar, consisting of four staves. The music is written in treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a 3/4 time signature. The notation includes various note values (quarter, eighth, and sixteenth notes), rests, and chord symbols. The piece concludes with a double bar line and the word 'Fin'.

また、ギターを弾けるのが、1週間て2~3時間という恐怖の季節がやってきま
 もう、この時期にやめることは、なんとか今のレベルを維持すること、ゆずかな時間
 がないため、自分の弾きたい曲は1曲にしばり(今は「アルトゥーロ・マリア・ヴェルディ(Bach)
 さん)、他の曲はシャットアウト。かたりに、ソリのアルロソオ練習曲(セビパ20a練習曲集
 No.19)や、ビラロボスの練習曲No.1とかで、なんとか水準を保とうと長ばかり必死
 すがあきらまへん。びんびん、レベルは落ちていくばかり。あ〜、学生時代がいとましい
 今回の曲は、小生が作曲らしきものをはじめ、最初につらたもので、今から14~5
 月昔のもので。たしか Bach 曲の調のドレに影響を受けてつくったのだといひ
 憶が、かすかにあります。

そのころの夢は、ギタリストになるか、サラリーマンになっても自分の家に音楽ホールを
 地元のギター愛好会に参加して年1度ぐらひ演奏会を催すことでした。事実、当時
 ギター教室の先パイ諸氏のなかには、自分の家の庭に教会風のギター専用ホールを建て
 ている人もいました。(確か、学校の先生をやっていた) ですから、せめて後者の夢は非
 常に現実性が高い夢だと思っていました。どこでくつたのでしょうか。この理
 由のギヤツの大きさ。あ〜、時間がほしい。せめて、腹いっぱいギターが弾
 きたい!! と叫んでいる今日このごろです。

(58.11.23 50代 野村 隆夫)

— ぼくの音楽のおと — (第5)

PAGE _____

和音的変奏曲風練習曲 (第1)

作曲 阿部 輝明



日曜日の午後2時ごろ、ちびどもが「お風寝」を始めてから、目が覚める2時間の間が唯一の気がぬなく(ただし、起きるほうに気が抜けなから...)ギターが弾ける時間があります。それ以外の時にジャカジャカやっている、2匹の小悪魔たちがやってくる、せいの巻は、逆すは、ゆだんでバタバタのキで触りまくるは、おもちゃの自動車でこずこうとするは、弦を指でひっかけて、**ハッハッハッ**とやるはもう無茶苦茶になってしまうのです。しかし、小悪魔たちも最後は、紳士的な聴衆にはや変わ)。ハッハッハッと盛大な拍手がくるのでした。

アキ